

URL <http://www.sapporo-shaho.jp/>

ポラリス

No.31
2014.1

札幌社会保険総合病院 院外広報誌



- ◆新年のご挨拶
- ◆ピンクリボン運動
- ◆医療の現場から①②③
- ◆いきいき健康教室のご案内
- ◆こんにちは 医療連携・相談室です
- ◆第15回市民公開フォーラム
- ◆外来担当医師一覧



新年のご挨拶

院長

佐々木 文章



新年明けましておめでとうございます。

安倍政権下によって打ち出された様々な経済政策、いわゆるアベノミクスによって、我が国の経済状態はやや改善傾向にあり、北海道も少しはその恩恵を受けているようです。

そのような中、次年度の政府予算案が決定し、2014年度の診療報酬改定率が示されました。全体の改定幅は0.1%のプラス改定とされていますが、消費税増税対応分を除いた実質ベースでみると1.36%のマイナス改定であり、医療者にとって大変厳しい診療報酬改定となりそうです。

当院は、地域医療支援病院に認定されており、入院ベッドや医療機器等の共同利用等を通じて、地域医療機関と連携した急性期医療を提供しています。

当院が行っている診療をいくつかご紹介します。少子化の進む中、この厚別地区において、安心して妊娠出産ができる『産科診療』、狭心症、心筋梗塞に対する『循環器内科の心臓カテーテル治療』、白内障の治療はもとより、厚別地区で唯一『硝子体手術を行える眼科』、消化器疾患に対する『上部・下部消化管内視鏡検査、経鼻内視鏡検査』等を行っています。また、併設する健診センターではがん予防のためのがん検診に力を入れており、診療科と協力し、『がんの早期発見・早期治療』に努めております。

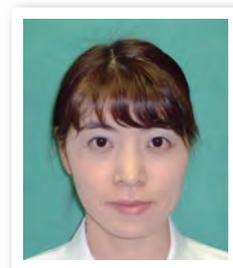
私ども、札幌社会保険総合病院の職員は、「病気やけがを抱える患者さんのために、少しでも役に立ちたい」という思いで医療に従事しています。なお、当院は本年4月1日から、運営母体が現在の社団法人全国協会連合会から、独立行政法人地域医療機能推進機構に移行します。それに伴い、病院名は「札幌北辰病院」に変わりますが、当院を支える医師、看護師を始めとする職員は引き続きその職務にあたってまいります。

本年も、院是である「人間愛と人権尊重を基本とした全人的医療」を目指し、職員一丸となって地域の皆様の健康と福祉の増進のために努力していく所存ですので、地域の皆様、地域医療機関の皆様には引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

2014年が、皆様にとって良い年になりますことを心からお祈りし、年頭の挨拶に代えさせていただきます。



第5回乳がん死ゼロをめざす、 新企画「ピンクリボン運動」は盛況に終了しました。 ご協力ありがとうございました。



看護局次長 小 泉 由貴美

毎年10月は、乳がんの早期発見・早期治療を啓発するピンクリボン月間です。当院ではピンクリボン活動を支援する一環で10月20日にレディース検診を実施し、乳がんと子宮がん検診を38名の方が受けられました。

この日に受診した約半数の方は、健診センターの窓と歩道のポスターで情報を得た方、厚別健康フェスタや当健診センターからの書簡などで、予約をされました。健診者の皆様からのアンケート結果から、「子供をあずけてこられる日曜検診は大変うれしい」「女性のスタッフが多くて安心した」「リラックスして受けられた」などの好評をいただきました。

また、午後からはセラトンホテルで市民公開フォーラムを開催しました。当院外科部長高橋学医師の「乳がん予防のガイドライン」の講演と、続いてパネルディスカッションが行われました。

会場からは多くの質問があり、講師と当院放射線技師、臨床検査技師、保健師がそれぞれ質問に答え、会場の皆様は熱心にうなずいておられ、メモをとる姿なども見受けられました。

その他、フォーラムでは新企画として「札幌市立信濃中学校吹奏楽部」の生徒約50名（中学2年生と1年生のみ）の皆さんによる演奏があり、緊張しながらも顧問の遠藤先生の指導で、「あまちゃんのテーマ」から、聞きなれたクラシックも含め最後は「コスモス」の全員合唱で、会場からの大きな拍手で終了しました。

中学生のご両親の年齢は、30歳～40歳代の働き盛りの世代で、乳がんの好発年齢でもあります。参加者から「今回の演奏を聞き、生徒達の頑張っている姿を見て、私たち親は乳がんにならないように今から予防していくことを考えさせられました」「親が乳がんになると、かわいそうな気持ちをするのは子供たちです。いつもは聞けない貴重なお話も聞けました。まずは自分の検診から見直したい」とお話ししてくださった方もいました。

講演と生徒さんの演奏する姿が健康の大切さ、検診の必要性を皆様に届けてくださったと感じています。

次年度もより多くの皆様に、乳がんだけでなく健診の大切さを知っていただき、健診センターをご利用いただけるように、取り組んでいきたいと思えます。



医療の 現場から 1

小児リウマチについて



小児科 部長 木 澤 敏 毅

はじめまして、10月からお世話になっております。

今回は私の専門である小児リウマチ性疾患についてお話しさせていただきます。小児リウマチ性疾患と一口にいても意外と分野としては広く、成人でいうリウマチ（小児ではJIA:若年性特発性関節炎といいます）からSLE（全身性エリテマトーデス）等の疾患に加え、自己炎症症候群と名付けられている周期的に感染等と関係なく炎症を繰り返す珍しい疾患や不明熱の診断を行うのも私たち小児リウマチ医の仕事です。

一つ一つの病気としての患者さんの絶対的な数は少ないのですが、その疾患の多くは長期にわたり病気とお付き合いする必要があります。

多くの病気は全身性に症状を引き起こします。リウマチであれば関節の問題として運動障害、機能障害が問題になります。また小児特有の問題として、成長期にステロイドや免疫抑制剤を長期に使うことにより成長障害や骨粗鬆症といった体の問題が起こりえます。長期にわたり治療が続くことやステロイドで顕著にな

る中心性肥満等による心理的な問題や長期間病院に通院し、薬剤を使用することでの経済的な問題も存在します。

とはいえ、近年の医療の進歩により新しい生物学的製剤といわれるサイトカイン、（という炎症を引き起こす物質）を抑える薬や免疫抑制剤が小児領域でも使用できるようになりました。小児リウマチ医としては新しい薬剤を使用しつつ、少しでもそのような患者さんのお力になればと思っております。

最後にこのような病気は“熱が下がらない”、“体がだるい”、“節々が痛い”、“変な発疹が出るようになった”といった症状がきっかけで精密検査を行い、見つかることがしばしばあります。リウマチと聞くと子供ではめったにない病気ですので、敷居が高いような印象をもたれるかと思いますが、実際は「なんか普通の風邪とは違うな?」「なんか気になる症状があるんです。」といった時に気軽に声をかけていただければと思います。

医療の 現場から 2

タバコとCOPD（慢性閉塞性肺疾患）



呼吸器内科 医員 石 川 立

タバコをお吸いになっている皆様、最近、歩いた時の息切れや咳、痰が増えたりしていませんか。それはCOPDの症状かもしれません。

COPDと聞くと難しい印象があるかもしれませんが、簡単に言えば、タバコを主とする有害物質を吸った肺がダメージを受け、呼吸の機能が障害されてしまう病気です。近年、日本人に増えてきている肺の病気とされています。気腫性病変といって肺の構造が破壊されて機能しなくなったり、末梢気道病変といって空気の通り道（気管支）が障害を受けて空気の流れが悪くなることで、前述のような症状が出てきてしまいます。

COPDの治療には飲み薬や吸入の薬が多くありますが、実はそれらの薬は、COPDの症状を和らげることはできても、基本的には障害を受けた肺そのものを元通りにすることはできません。つまり、タバコを吸って既に悪くなってしまった肺は、もう元には戻りません。そのままタバコを吸い続けると、日常生活に支障が出るかもしれません。重度の場合は、在宅酸素といって自宅に酸素ボンベを貸し出してもらって生活したり、最悪の場合は呼吸の苦しさにあまりに動くことができず、寝たきり状態になってしまうこともあります。COPDは、薬で治せる病気ではないという意味では、とても怖い病気です。

既にタバコの影響で肺が悪くなっている方でも、今からでも禁煙すれば、これ以上肺が悪くなることを少しでも食い止めることはできるでしょう。今は症状が無く平気な方でも、このまま吸い続けると近い将来、症状が出てしまう可能性もあります。COPDの予防や治療の第一歩は、何よりも禁煙です。そのほかに

も、タバコは肺癌の原因の1つとして有名ですし、呼吸器内科領域では、まさに「百害あって一利なし」です。

当院ではCOPD治療は勿論ですが、禁煙外来も行っています。自力での禁煙が難しい方は、御相談ください。

医療の現場から 3

急性虫垂炎



外科 医員 高橋 秀徳

急性虫垂炎は虫垂の内部で細菌が増殖し炎症を起こす状態のことをいいます。急性腹症（急激な腹痛をきたす疾患）の中では頻度が最も高い病気です。一般的でありふれた病気ですが、だれもが発症する可能性のある病気でもあります。みぞおちが痛くなり、徐々に右下に痛みが移動するというのが典型的な症状で、発熱や吐き気を伴うこともあります。診断は超音波検査やCT検査で行い、検査結果にもとづいて治療方針の決定を行います。

治療は一昔前までは診断が難しく重症化する可能性が高かったため、ほとんど手術を行っていました。診断精度の向上や、抗菌剤の開発により、抗菌薬で保存的に治療することが可能となってきました。しかしこの場合は抗生剤が無効な場合や、再発する可能性があります。保存的に治療した場合の再発は30～70%といわれています。

炎症が高度な場合や周囲に膿瘍を作っている場合、穿孔している場合には緊急手術が必要になります。これまで虫垂炎の手術は右の下腹部を斜めに3～5cm切開し、開腹して行うことが一般的でしたが、現在で

では腹腔鏡を用いた手術が普及しています。腹腔鏡下手術は傷が小さく目立たない、手術後の回復が早く入院期間が短くなるなどのメリットがあります。当院でも虫垂炎に対する腹腔鏡手術を導入しています。しかし、腹腔鏡下手術は高度の炎症や膿瘍がある場合には手術中に開腹する必要が出てくる場合があります。また、そのような虫垂炎は手術に伴う合併症の頻度が高くなってしまいます。

そのため、抗菌剤治療による再発のリスクと、緊急手術による合併症のリスクを軽減させるために、間歇期虫垂切除術を行うこともあります。合併症の起きやすい炎症の強い時期は抗生剤で治療し、炎症が治まってから腹腔鏡下に虫垂を切除するという方法です。こうすることでより安全に治療することが可能となります。

もちろん虫垂炎といっても炎症や重症度は様々であり、ケース・バイ・ケースで治療方法を選択することが重要となります。皆様の状態やご希望に合わせた最適な治療を行いたいと考えております。

いきいき健康教室のご案内

開催日	テーマ	場所	講師
2014年2月21日	「超音波ってなんだろう（仮）」（第8回）	当院2階 講義室	検査部

こんにちは 医療連携・相談室です

日頃、連携をさせて頂いている
先生方を紹介します。

医療法人社団 青木内科クリニック

〒003-0023 札幌市白石区南郷通1丁目北1-1
白石メディカルビル5F
電話 011-860-6771 FAX 011-860-6775
ホームページ：<http://www.aoki-naika.com/>

今回は、青木内科クリニック院長である青木 伸先生に話をお伺いしました。クリニックは、地下鉄白石駅のすぐ近くにあり、糖尿病をはじめ慢性疾患に対する専門外来を有しておられます。先生を中心として看護師、管理栄養士、臨床検査技師など専門スタッフとともに診療にあたっておられます。



▲院長 青木 伸先生



▲青木先生とスタッフの皆様

●病院の特徴について教えてください

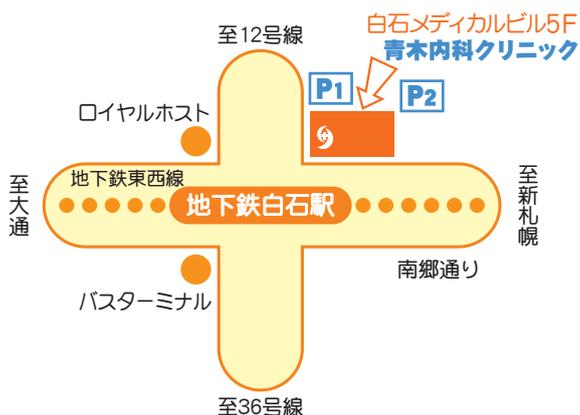
皆様お久しぶりです。13年前まで札幌社保に7年間糖尿病内科医として勤務していた青木です。現在は地下鉄白石駅のビルで開業しています。診療内容の特徴は糖尿病、脂質異常症、高血圧、動脈硬化性疾患など慢性疾患が主体です。特に糖尿病はインスリン注射指導、自己血糖測定、栄養指導など医師以外の職員の指導が必要な分野です。看護師7名、管理栄養士2名がその仕事に携わっています。糖尿病に合併しやすい動脈硬化性疾患（動脈が詰まる病気）のスクリーニングに頸動脈IMT、下肢血流測定、ホルター心電図、心エコーなどの検査は臨床検査技師が1名で担当しています。事務は4人います。血液検体検査は検査会社のSRLの職員が1～2名常駐して、当日に検査結果を出してくれます。以上のごとく血糖の管理のみではなく、合併症の検索にも力を注いでいます。私以外の糖尿病の専門医が3名、循環器の専門医が4名診療に協力してもらっています。

●医療連携に対するお考えをお聞かせください

高齢者が治療の対象になりますので、悪性腫瘍も扱うことがあります。貴院のCT、MRIなどでの精密検査ではかなりの件数お世話になっております。消化器系の内視鏡の検査、治療、循環器の精査、治療でもお世話になっております。これからも病診連携の体制を維持して良質の医療を提供したいと思っています。



▲新地下鉄白石駅7番出口のすぐ近くです



第65回 札幌社会保険総合病院開院記念行事

第15回 市民公開フォーラム

日時：平成26年1月31日（金）午後5時15分から

場所：札幌社会保険総合病院 エントランスホール

入場：無料

第1部 歌とピアノ演奏

歌・・・鈴木 敦子

ピアノ・・・神原 希未

曲目・・・ユー・レイズ・ミー・アップ 他



第2部 記念講演

「これが正解！ お薬の飲み方」



札幌社会保険総合病院

薬剤部長 井藤 達也

お気軽にお立ち寄りください。お待ちしております。

編集 後記

皆様、あけましておめでとうございます。9連休で食べすぎた方はすこしだけ努力して元の体型に戻っていきましょうね。昨年度の漢字一文字は“輪”でしたね。いろんな意味が含まれていると感じられます。

東京でオリンピックが開催されます（数年後ですが・・・）。2月にはソチで冬季オリンピックです。北海道からメダル期待の選手がたくさん出ています。選手に負けずに、当院を利用する地域の人々に職員一同輪となって、「お・も・て・な・し」のこころを提供したいものです。新機構移行まであとわずかとなりました。何事に対しても道産子の様にどっしりと、時にはサラブレッドのように俊足に物事を進めていきたいですね。

（嶋宮記）

編集委員 長瀬・篠原・嶋宮・中野渡・佐々木・伴・奥田・矢野・北村・小竹・早川・根上・武藤

札幌社会保険総合病院 外来担当医師一覧

【受付時間】 午前 8:00~11:00 午後 12:30~15:00

【面会時間】 午後 13:00~19:30

※土曜、日曜、祝日は休診

平成26年 1月6日現在

診療科		曜日	月	火	水	木	金	備考	
総合診療科	午前		吉田(山口)	安達/渡邊/ 派遣医	安達 渡邊	安達 渡邊	安達 渡邊	※連名は交代制	
	午後(再来予約)		安達/渡邊	渡邊	安達/渡邊	渡邊	安達/渡邊		
内科	糖尿病	午前	増田	平井 鴨嶋	平井 (増田)	増田	増田		
		午後				平井			
	腎臓病	午前	豊山			江端	山田		
		午後	豊山			江端	山田		
	呼吸器	午前	相坂	横尾		石川	相坂		
		午後					石川		
	消化器	午前	高木(智)	藤澤		今井/吉田	高木(智)		
		午後	今井			吉田	藤澤		
	循環器	午前	藤井 内藤	高木(覚)			藤井		藤井(ペースメーカー) 中原
		午後		中野		高木(覚) 中原	内藤		中野
リウマチ科	午前	渡邊				清水			
血液科	午後			安達		安達			
小児科	午前	東館	東館		伊藤	木澤	東館	※午後的一般外来は 予約・紹介優先	
	(一般)	交代制			派遣医	交代制(第4週派遣医)	交代制		
	午後(専門外来)	木澤 (リウマチ外来)	予約注射 (予約制) 予防接種 (予約制)	乳児健診(1歳まで) 第1・3週:手代木 (精神衛生相談) 第2・4週:伊藤 (神経外来) 第1・3・5週:日下 (川崎病外来)		東館 (心臓外来)	伊藤 (神経外来)	※専門外来は 完全予約制	
外科	午前	(一般)	高橋(学)	中川	松岡	高橋(秀)	谷	※ストーマ外来、 リンパ浮腫外来は 予約制	
		(乳腺)	高橋(学)	高橋(学)		高橋(秀)			
		(甲状腺)	高橋(学)	高橋(学)		高橋(秀)	佐々木		
		(小児外科)					佐々木		
		(肛門)					谷		
	(ストーマ)					予約制			
	午後	(一般)	高橋(学)		松岡	高橋(秀)	谷		
		(乳腺)	高橋(学)			高橋(秀)			
		(甲状腺)	高橋(学)	佐々木		高橋(秀)			
		(肛門)					谷		
(ストーマ)		予約制							
(リンパ)	予約制	予約制	予約制	予約制	予約制	予約制			
整形外科	午前	黒部	黒部	黒部	黒部	黒部			
	午後			(手術)		(手術)			
皮膚科	午前	松村 安藤	松村 安藤	松村 安藤	松村 安藤	松村 安藤			
	午後	松村	松村	安藤	(手術)	安藤			
泌尿器科	午前	三橋 松田	三橋 松田	三橋 松田	三橋 松田	三橋 松田	※混雑時3診体制		
	午後	三橋 松田	(手術)	三橋 松田	(手術)	三橋 松田			
産婦人科	午前	(婦人科) (産科・婦人科)	足立 玉手	山本 足立	山本 玉手	玉手 足立	新患のみ 山本	※専門外来は予約制 ※金曜日婦人科交代制 第1・3・5足立、第2・4玉手 ※水曜受付14時~15時 産後健診12:30~13:30	
	午後	(婦人科) (産科・婦人科) (専門外来)	(手術) 母乳外来	山本 足立 助産師外来	新患のみ 玉手 産後健診	(手術) 母乳外来	新患のみ 山本 助産師外来		
眼科	午前	廣瀬(予約制)	廣瀬 横山	廣瀬 横山	廣瀬 横山	廣瀬 横山	※3才児健診は 予約制 ※水曜日の受付時間 は午前10時まで		
	午後(予約制)	(手術/予約検査)	予約検査	(手術)	予約検査	(手術)			
耳鼻咽喉科	午前	栗原 川原 寺田	(手術)		栗原 川原	栗原 川原	予約検査・処置		
	午後	(手術)	(手術)		栗原 派遣医	川原 寺田			
放射線診断科	午前	吉川	吉川	吉川	吉川	(検査)			
	午後	吉川	吉川	吉川	吉川	吉川			

【予約及び予約変更受付】 土・日・祝日を除く 午後14:00~17:00 (小児科のみは時間内で予約も変更も可能)

※都合により代診・休診となる場合がございますので、事前にご確認願います。

※各科の午後(手術)(検査)(乳児健診・予防接種)は、診療時間の調整が必要ですので電話で確認してください。

※泌尿器科は混雑した場合、3診にて診察を行います。



発行責任者: 佐々木 文章

発行: 〒004-8618 札幌市厚別区厚別中央2条6丁目2番1号 札幌社会保険総合病院